

社会福祉士養成課程に在籍する大学生を対象としたソーシャルワーク・アプローチ教育における学習用事例漫画の開発と活用効果の検討

—川村隆彦 2020 の学習方式を応用して—

○ 愛知教育大学（非常勤講師） 氏名 岩川 奈津 (009263)

キーワード3つ：福祉教育, 漫画, ソーシャルワーク・アプローチ

1. 研究目的

本研究の目的は、筆者が行った講義実践をもとに、ソーシャルワーク・アプローチの教育用事例漫画に必要な工夫を整理し、その有用性を検証することである。特に、川村 2020 のアプローチ学習の方法を応用し、提示する事例が漫画媒体でも有効かどうかを探る。

2. 研究の視点および方法

ソーシャルワーク・アプローチ教育は知識伝達が主流である。しかし先行研究等では、事例を用いて実践的な理解を促進しようとする取り組みもなされている（川村 2020、松山 2013 など）。川村 2020 は、活用事例を例示しアプローチ学習の導入としている。また、松山 2013 は、事例を用いた学習がアプローチの実践的理解を促進できると指摘している。

また、教育題材は異なるが、土屋ら 2022 は事例漫画をソーシャルワーカーの研修に活用し、具体的なイメージ作りと疑似的な経験学習を促す効果を報告している。他領域での研究では、漫画教材は学習意欲の向上や理解・記憶の定着に効果があるとされる（凌 2020）。

先行研究の動向を踏まえ、「ソーシャルワーク・アプローチ教育において事例漫画を活用することで実践場面をイメージした理解を促進できる」と仮説を立てた。また、副次的ではあるが、凌が提示するような漫画教材の学習上のメリットも享受できると予想した。

仮説をもとに、学習用事例漫画を作成し、社会福祉士養成課程の大学生向けの講義でアプローチ学習の導入に使用した。漫画の効果を検討するために、受講生へのアンケートを実施し、漫画制作時の工夫と比較した。

3. 倫理的配慮

アンケート調査は、日本社会福祉学会の研究倫理規定を踏まえた倫理的配慮の下に実施した。受講生に対し、アンケートの結果は成績に影響しない旨、データは分析前に全て匿名化される旨、研究結果発表時にも個人情報匿名化がなされる旨、を口頭及び文書で伝えた。なお、本研究の実施にあたり、COI 関係にある企業や団体等はなかった。

4. 研究結果

・学習用事例漫画の開発

学習用事例漫画の開発は、【ケーススタディ用事例の調査→ストーリー作り→漫画制作】の過程を経た。まずは川村 2020 を含む複数の事例集や教本を調査し、各アプローチの典

型例を抽出した。その内容を基に架空のケースを作成し、ストーリー化、漫画化した。漫画の制作作業も筆者自身が行った。

学習用事例漫画の制作にあたっては、①労力が少なく読める②講義の理解を助ける③誤解や混同を防ぐ④記憶の定着を助ける⑤活用場面をイメージさせる⑥ケースを身近に感じさせる⑦学習に対する抵抗感を減らす、といった観点から工夫を検討した。具体的には、簡潔な内容にする、時系列を一方向で描写する、図解を使う、解釈が分かれる演出をしない、身近なクライアント像を設定する、楽しい印象の漫画とする、といった工夫を施した。

・学習用事例漫画の活用

開発した学習用事例漫画は、受講生に配布し、授業の冒頭に各自で読むよう促した。その後、漫画に対して簡単なコメントを加え、知識伝達主体の授業を行った。

講義が全て終了した後、受講生へのアンケートを実施した。質問は i 漫画を理解できたか ii 漫画に講じた工夫の効果を実感できたか iii 学習用事例漫画は必要か iv 自由記述、であった。回答者総数は 20 名だった。

質問 i では、80%の受講生が漫画の内容を理解できたと回答した。質問 ii では、漫画制作時の観点①②⑤⑥に対して肯定的な回答は 70%以上だったが、観点③④⑦に対しては 45%以下にとどまった。学習用事例漫画の必要性は、全ての受講生が必要だと回答し、そのうち 75%は必要性を強く感じると回答した。質問 iv の 9 名全員が事例漫画を好意的に評価し、特に活用場面のイメージが明確になる点を評価する記述が多かった。

5. 考察

今回開発した学習用の事例漫画は、文書よりも読みやすい形で事例を提示し、ソーシャルワーク・アプローチの具体的な実践をイメージさせ、学習を補助する役割を担うことができた。この結果は、松山 2013 や土屋 2022 の結論を支持することに加えて、川村 2020 式のソーシャルワーク・アプローチ学習で事例漫画が有効な教材になる可能性を示唆している。しかし、仮説が確かめられた一方で、副次的に期待された効果は、はっきりとは確認できなかった。これは効果測定の方法が適切でなかったおそれがある。

工夫や効果測定さらなる検討と、より有用な学習用事例漫画開発を今後の課題とする。

引用・参考文献

川村隆彦(2020)『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規出版

松山郁夫(2013)「実践モデルに関するソーシャルワーク演習」佐賀大学文化教育学部研究論文集 17 (2), 71-79

土屋典子・永田聡典・河原智江(2022)「事例漫画を活用した多職種協働技法研修プログラム開発—オンラインによる研修手法及び研修内容に関する試論—」『人間の福祉：立正大学社会福祉学部紀要』36, 115-124

凌巧(2020)『漫画を日本語教育に教材として利用することの可能性に関する実証研究：オノマトペのコーパス分析を通じて』広島市立大学 13-26